

1部：火を投げ込むイエス

(ルカ 12:49-53)

「火を投げ込むために来た」「平和ではなく分裂」というイエス様の言葉から、信者にある人間的願い(肉)は葛藤をもたらして答えが見えなくなることがわかるので、信者に求められる覚悟とは?

1.福音は地上に靈的戦争を引き起こす。

- 1) 光と闇、いのちと死をあらわに
- 2) この世はサタン(暗闇)の国
(12 戰略)
- 3) そこに光のキリストが
- 4) 受け入れと拒否に分かれ
- 5) 闇は光を攻撃
(イエス様のバプテスマ)
- 6) 関係の支え崩壊
- 7) 肉的争いを避け、妥協も避け

2.信者の最高の価値、最高の選択はキリストとの関係に。

- 1) 暗闇にいる人々への姿勢
-受け入れ、超越、祈り
- 2) 人間的(肉的)なものを失うことがあっても
-疎外、迫害、追放、訴え、憎しみ、関係崩壊、喪失
- 3) 喜んで Only キリスト、絶対キリスト、キリスト充分
-マタイ 5:10-12

サタンは人間的(肉的)なものを奪うことで信仰の妥協へと引き落とそうとすることを肝に銘じよう!

信者の自分は、光の子どもである確信と感謝と自信を持とう!

人間的(肉的)なことがネックにならないように、サタンのやぐらが碎かれ御座のやぐらが立つ靈的サミットになり、闇にいる人々を生かせる光の神殿を回復しよう!

2部：カインの勘違い(創世記 4:1-15)

なぜ人々は比較意識により心の傷を負って苦しい思いをしたり、怒りが溜まり病や事件事故になるのか。どうすれば良いのか。

1.人生の問題を誰かのせい、何かのせいにする。

- 1) アベルのせい(神のせい)
- 2) 被害意識、比較意識
- 3) 自存心の傷、怒りの感情
- 4) 背後のサタン(真の問題が見れないように)

2.見える原因解消が問題の解決と思う。

- 1) アベルさえいなくなれば
- 2) 手段を選ばず
- 3) 正当化、合理化
- 4) 背後のサタン(真の解答が見れないように)

3.神様の愛

- 1) 真の問題をあらわに(7)
- 2) 良いことと罪を明らかに
- 3) キリストを拒否して、自分の義に
- 4) 機会(6,7)を拒否(8)し、呪われ(11,12)
- 5) 最後まで機会を(15)

自分の中に、キリストの福音の御言葉が聞こえないようにする勘違いは何か吟味しよう!誰か何かのせい(問題)しているそこに真の問題に対する御言葉の光が照らされるように祈ろう!キリストの絶対価値に目覚めて、全てをキリスト中心に解釈し、誰か何かのせいにしていたものこそキリストと出会う道だったことに気づいて自由になろう!

1部-ルカ 12:49-53 火を投げ込むイエス

なるほど/

信者の最高の価値、最高の選択はキリストにあるので、結果キリストでない人間的な願いに火かつ灵的戦争につながる。

ならば/

人間的な願いで信仰を奪おうとするサタンの策略に対抗して、人間的な願いがネックにならないようにサタンのやぐらが碎かれ、御座のやぐらが建つよう祈ろう!

2部-創世記 4:1-15 カインの勘違い

なるほど/

人生の問題を誰か何かのせいにして、見える原因解消を問題解決と勘違いする人間に、神様は愛をもって、真の問題を知らせてキリストを信じる信仰へと導かれる。

ならば/

自分の中に福音が聞こえないくらい勘違いしているところはないか吟味して、そこにキリストの御言葉の光が照らされるように祈ろう!それで、その勘違いするしかなかった全てがキリストに出会う道だったことを告白し自由になろう!